

麦の穂

発行責任者 医療法人光臨会 理事長 荒木 攻

85
令和2年
10月10日発行

医療法人 光臨会
荒木脳神経外科病院
Araki Neurosurgical Hospital

コロナ禍における当院の役割

猛暑の夏が終わりを告げ初秋の気配が感じられる中、安倍総理の突然の辞任により9月16日には菅新内閣が発足しました。一方で、今年の春から本格的に流行が始まった新型コロナウイルス感染症は第2波の状況の中で、いまだ終焉の見通しが立っておりません。

新型コロナの流行は従来の医療供給体制に大きな変化をもたらしました。都道府県が指定した病院では新型コロナの入院患者さんを受け入れるため、通常の診療を後回しにしてでも新型コロナ感染症の治療に取り組んでいます。それ以外の病院でも入院してくる患者さんの新型コロナ感染を想定しながら感染防止対策を講じつつ通常診療を継続しています。

救急医療の現場でも、救急搬送される患者さんが新型コロナ感染の可能性もあるので、救急隊員の方々はこれまで以上に感染管理に気を配っておられます。救急車を受け入れる病院では、発熱などの症状があれば新型コロナ感染を疑い、受け入れが難しくなる状況も生じています。広島市消防局のデータによると、今年の3月以降、発熱や呼吸器症状を有する患者さんは昨年と比較して受け入れ病院が決まるまでの時間が長くなっています。

さて、当院の場合は構造的にも機能的にも新型コロナ感染の患者さんに入院して頂くことは困難な状況にあります。しかし、私達はコロナ禍でも地域医療を守るのが使命と考え、脳卒中や脳神経外科疾患の救急患者さんが仮に発熱していても、可能な限り受け入れを行っています。不幸にして搬送されてきた患者さんが新型コロナ感染とわかつてもそれ以上感染を拡大させないよう、当院の職員は神経を擦り減らしながらも、自らと患者さんの安全を確保する努力を日々続けております。

このような課題の多い状況の中、当院では脳卒中診療機能の向上を目指し、本年8月1日から脳卒中集中治療室（Stroke Care Unit）を6床から9床に増床しております。コロナ禍において菅政権による更なるコロナ対策の推進が期待されるなか、当院もできる限り地域医療へ貢献してまいりたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和2年10月1日
医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院
院長 荒木 勇人

もくじ

- ① コロナ禍における当院の役割
- ② あんしんプラザ 開設20周年を迎えて
- ③ 広島ロボケアセンター開所1年を迎えて
- ④ 医療安全研修をおこないました
管理栄養士のワンポイントアドバイス 魚を食べて脳卒中・心臓病を予防しよう！
- ⑤ 連携医療機関のご紹介 —— (八千代会グループメリィホスピタル) ——

あんしんプラザ 開設20周年を迎えて

あんしんプラザは、平成12年6月に開所し、今年で開設20年を迎えました。

場所は、荒木脳神経外科病院から西へ1kmほど離れた庚午中に位置し、医療法人光臨会の介護部門を担う3つの事業所(デイサービスあらき、あんしんホーム、荒木居宅介護支援事業所)があります。

あんしんプラザでは、法人理念「皆様に安心していただける、全人的な医療と介護を目指します。」をモットーに、各種専門スタッフが利用者さまにとって最適なサービスの提供に日々努めております。

今回は、改めて2つの事業所の紹介をさせていただきます。

※案内図・連絡先は「麦の穂」6面下をご覧下さい。

デイサービスあらき(通所介護) 1階

定員:32名 対象者:事業対象者、要支援・要介護の方

送迎にて通っていただき、朝から夕方まで日常生活のお手伝いや、機能訓練を行います。

習字や工作、将棋など好きなことに取り組んでいます。季節行事も行っています。



減塩食、糖尿病食や、刻み食、トロミつきなど利用者に合わせた食事形態をご用意しています。



トイレを改修し、より安全・快適にご利用いただけるようになりました。



療法士が常勤しており、安全な動作のアドバイス効果的なトレーニングの指導など行っています。



あんしんホーム(認知症対応型共同生活介護:グループホーム) 2・3階

定員:各階9名(計18名) 対象者:認知症を有した要支援2~要介護5までの方

認知症を有した高齢者の方々が、スタッフの援助を受け、お互いに助け合いながら自立した共同生活を営む入所施設です。

入居者様の個性を大切にし、趣味活動や、家事など役割を持っていただきながら、充実した毎日を過ごしていただけるようサポートしています。また季節行事や外出イベントも企画しています。



全室個室で、タンス・ベッドエアコンを常備しています。



看護師・療法士が常勤し、医療・リハビリの視点から、日々の健康管理や生活環境の調整など行っています。

荒木脳神経外科病院の医師が定期的に往診し、緊急時には、24時間病院が受け入れ体制を整えています。



随時、見学・相談を承っています。詳細はHPをご覧ください。

<http://arakihp.jp/profile/group/anshin-plaza/>

広島ロボケアセンター開所1年を迎えて

広島ロボケアセンターは、おかげさまで今年7月1日に開所一周年を迎えました。

当センターは、HAL®(CYBERDYNE社が開発した装着型サイボーグ)を用いた保険適応外のトレーニング施設として株式会社シャレムが運営しており、荒木脳神経外科病院でHAL®に習熟した療法士が、脳・神経系の運動学習を図るプログラム「Neuro HALFIT®」を利用者様毎に作成し、日々提供しております。

下記グラフのように利用者のうち脳卒中による後遺症を患っておられ、介護度・障害等級も重度の方が半数以上を占めています。多くの方は何らかの歩行障害をお持ちで、歩行に対して強いニーズを抱えておられます。歩行能力の改善には、両脚に装着するHAL®を用いた歩行トレーニングを中心に行います。その結果、歩幅の拡大や歩行速度の改善、バランス能力の向上につながり、ご自身のモチベーションを高めることができます。

ここに、1年間のトレーニングにより、一定の効果が得られた事例を紹介いたします。

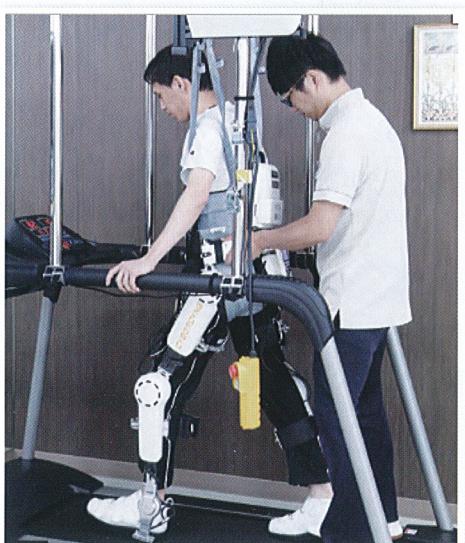
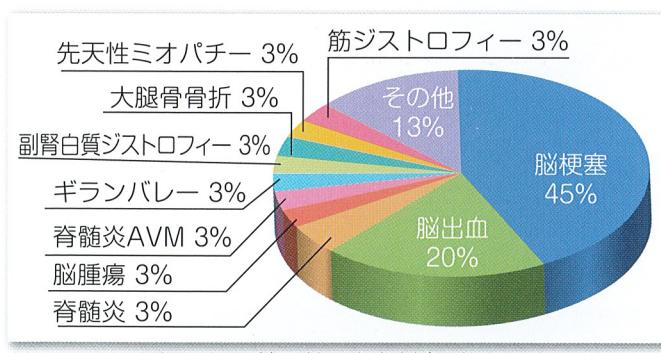
この方は60歳代男性で、5年前に脳梗塞により左半身運動麻痺となり、現在は自宅療養中です。昨年の7月のご利用開始時は左上肢に重度、左下肢は中等度の運動麻痺があり、屋内では左足に装具を装着し、四点杖で歩行をされていました。また、歩行は両脚を揃えて歩く様式で歩幅は狭く、歩行速度も緩徐でした。そこでHAL®下肢タイプを使用した歩行トレーニングを週1回のペースで継続し、回数を重ねるうちに、10m歩行時間の短縮や、その際の歩数の減少がみられました。現在では1本杖で脚を互い違いに歩く前型歩行となっておられます。

当センターではいつもご利用者様の「再び自分の足で歩きたい」との気持ちに寄り添って、目標の達成まで共に地道に頑張り、共に喜びを分かち合いたいとスタッフ一同願っております。

最後に、今年度から広島市の介護予防事業の委託を受けて、フレイル（加齢や筋力・体力低下が引き金となり陥る心身機能の虚弱状態）の予防を目的としたメニューも始めております。

その他詳細については、担当者よりご説明いたしますので、お気軽にご相談くださいませ。

今後とも広島ロボケアセンターのご利用を、よろしくお願い申し上げます。



HAL下肢タイプによる歩行トレーニング中の様子

住所：広島市西区庚午北2丁目16-4-102
(荒木脳神経外科病院より
宮島街道沿いに220mほど西方面)

電話：082-208-2442
広島ロボケアセンター センター長 荒木 晶子

案内図



医療安全研修をおこないました

令和2年度新入職員および中途採用者を対象に、危険予知訓練（以下KYT）の基礎と演習、身体拘束体験会を開催しました。本年は新型コロナウィルスの流行から感染症対策として少人数・短時間で意識しつつ、体験とグループワークを充実できるよう実施しました。

6月に開催したKYT研修では、事前に研修資料を配布しKYT事例の自己学習を行なった上で実施しました。当日は同職種のグループで日常的によくある場面のイラストから危険予測を行い、対策案を指差し呼称の唱和で発表しました。

次いで7月に行った身体拘束体験会では、看護部、リハビリテーション部だけではなく、普段体験することのない事務系、臨床検査技師、栄養士など多職種も対象に実施しました。

①拘束される気持ちを考える ②自分の家族だったらどんな気持ちになる？ ③今私たちができること という3つのテーマでグループワークを行いました。参加者からは不安な気持ちになる、何をされるのだろうと怖くなる、拘束を行う理由を知りたいなど、率直な感想が聞かれました。そして今私たちができることは、患者・家族の立場に寄り添った丁寧な説明を行って不安を取り除くこと、日々本当にその抑制が必要か検討することが大切という意見が多く聞かれました。

コロナ禍の中、限られた時間という状況下で、工夫を凝らし協力し合うことで学びを深める職員同士の交流ができたと感じられる研修会でした。

医療安全管理者 吉本 智子



管理栄養士の
ワンポイントアドバイス

魚を食べて脳卒中・心臓病を予防しよう！

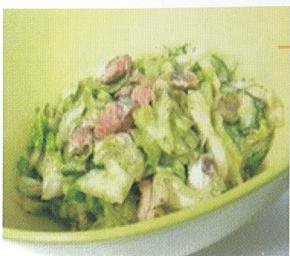
脳卒中予防に週に1回魚介類を摂ってみませんか？

魚介類に含まれるDHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）は、血圧低下、血栓の予防、血中中性脂肪の低下などの作用があります。これらは人間の体内で合成する事ができないため、食品からの積極的な摂取が必要となります。

EPA、DHAの含有量が多い魚はいわゆる「青背魚」が多く分類されます。その中秋が旬のさんまがEPA、DHAを多く含む魚として有名です。ですが今年は不漁のため、初競りで1kg4万円と過去最高値となりました。今年はさんまが高級魚として扱われるかもしれません。その他、秋を旬とするサケ、戻りカツオ、さばもEPA,DHAを多く含んでいるのでおすすめです。

一番おすすめの食べ方は生で食べる事です。新鮮な魚は酸化が進んでいないので効率よく摂ることができます。焼く場合は、ムニエル、ホイル焼き、照り焼きなどにすると脂が出にくくなるためおすすめです。鮭など皮を残す人がいると思いますが、皮に脂が残っているのでなるべく皮まで食べるようしましょう。煮魚にする場合は煮汁に流れ出るため、汁を残さないことがおすすめです。その他、さばやさんまの缶詰などでも手軽に摂ることができます。

EPAは酸化しやすいため、抗酸化作用をもつ食品と一緒に食べることをおすすめします。抗酸化作用をもつ栄養素はビタミンC、ビタミンEです。焼き魚に添えられている大根おろしとレモンの組み合わせはビタミンCを含みます。ビタミンEは、ごま油、南瓜、アーモンドなどに含まれています。



☆キャベツとさば缶のサラダ☆

〈材料〉4人分

キャベツ	大きめ3~4枚
さばの味噌煮缶	1缶
すりごま	大2
マヨネーズ	大2
酢	大1
塩	小1/4



作り方

- ① キャベツは千切りにしてざるに入れ、塩を振り 軽くもみこんで10分程度置く
- ② キャベツがしんなりしたらキャベツの水分を絞る
- ③ さばの味噌煮缶を汁ごと②に加え身をほぐし、 残りの材料も全て加えてしっかり混ぜ合わせる



連携医療機関のご紹介



八千代会グループ メリィホスピタル

住 所：〒731-3167 広島市安佐南区大塚西3丁目1番20号

T E L：0120-468-800

院 長：福田 康彦



◎亞急性期対応、199床

回復期病棟(49床) + 地域包括ケア病棟(50床) + 療養病棟(100床)

◎回復期病棟はリハビリテーションスタッフが在籍、脳卒中後や骨折術後などのリハビリテーションを行なっています。

◎地域包括ケア病棟は、地域のクリニックや施設からの急な入院依頼や、急性期病院からの在宅復帰までの患者さんを受け入れています。

◎療養病棟は医療区分(医療必要度)の高い各種慢性疾患の患者さんを受け入れ、看取りまでケアしています。



院長 福田 康彦先生

メリィホスピタルは、2018年4月開設のまだ新しい病院です。サッカースタジアムのある美しい西風新都には、皆様に以前より親しんでいただいている有料老人ホームメリィハウス西風新都がありますが、そのすぐ近くに8階建ての瀟洒な当院があります。

20年以上前から高齢者医療・介護に取り組んできた八千代会は、安芸高田市に500床の病院を運営していましたが、その病床の一部をメリィホスピタルに移動して、現在は回復期リハビリテーション病棟50床、地域包括ケア病棟50床、医療療養病棟99床の計199床で運営しております。

当院は急性期病院で治療を終えて治療継続やリハビリテーションが必要な患者さんを受け入れるポストアキュート機能と、地域で暮らす高齢者が発熱や脱水症状等により一時的に在宅で暮らすことが困難になった方を早期に受け入れ、治療を行い、在宅復帰支援を行うサブアキュート機能を持つケアミックスの病院です。

常勤・非常勤合わせて20名以上の医師による医療、140名の看護師・介護士による手厚い看護、そして90名のセラピストによるリハビリテーションなど豊富な人材を揃えて日々手厚い医療・看護に努めています。特に「安全に口から食べること」を目指して、リハビリテーション専門医、歯科医による嚥下評価(VF・VE検査)を行い、言語聴覚士、看護師等が摂食・嚥下リハビリテーションに力を入れて在宅生活を支える支援を行っております。また、胃瘻造設にも対応しております。

荒木脳神経外科病院との連携としては、主に脳血管疾患後のリハビリテーションのご紹介を多くいただいております。また、当院と同一建物内にあるサ高住「メリィデイズ」を医療的ケアが必要な患者さんの退院先として利用いただいています。それに加えて八千代会の介護事業を利用されている方が脳卒中等を発症した際には、緊急搬送を快く受け入れていただき感謝しております。今後ますます顔の見える関係を深めていただきたいと思います。

当院はこれからも地域において引き続き、安心・安全な在宅生活を支える役割を果たすために努力いたします。



医療法人光臨会 理念

- 皆様に安心していただける、全人的な医療と介護を目指します

荒木脳神経外科病院 理念

- 脳神経外科としての専門性を軸に、幅広い診療体制で地域医療に貢献します
- 急性期医療の中核病院として、高機能で質の高いチーム医療を行います

運営方針

- 「医療の原点は救急である」
- 快適な療養環境と接遇の提供
- チーム医療の推進と相互啓発
- 「医療と福祉の複合化」の推進

患者様の権利

- 医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院は、職員全員が次のような患者様の権利を尊重し、納得と同意に基づいた医療を行います
- 個人の尊厳が守られる権利を尊重します
 - 最善かつ安全な医療を受ける権利を尊重します
 - 医療に関して知る権利を尊重します
 - 個人のプライバシーが守られる権利を尊重します
 - 自分自身の治療等について自分で決定する権利を尊重します
 - 自分自身の治療について他の医師の意見を聞く権利を尊重します
 - 苦情を申し立てる権利を尊重します

患者様の義務

- 患者様には適切かつ安全な医療を受ける為、診療上必要な自らの情報を正確に伝える義務があります
- 患者様にはお互いに快適な療養生活を受ける為に、定められた規則を守る義務があります。



外来担当医表

			月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	初診(1診)	渋川	中原	沖	江本	太田	広大
		初再診(2診)	荒木(勇)	太田	江本	沖	渋川	江本
		初再診(3診)	沖	野坂	加納		加納	
	午後	初再診	野坂	加納 (1・3・5週) 沖 (2・4週)	広大	加納	沖	広大
脳神経内科	午前	初再診(3診)				青木		
総合診療 (内科・外科)	午前	初再診(4診)	野村	浅本	藤井	浅本	藤井	野村
	午後	初再診(4診)	藤井	浅本	野村	浅本	野村	野村
	午前	検査		浅本		野村 浅本		
	午後	検査		浅本	野村	浅本		
脳神経外科 消化器内科	午前	初再診(5診)		荒木理事長	渋川		荒木(勇)	井上

診察時間

◆完全予約制

午前 9時～12時
(初診受付：午前 11時30分迄)
午後 3時～6時
(初診受付：午後 5時30分迄)

救急は 24 時間受付けております

※井上名誉教授
第1土曜日 月1回

医療法人光臨会



荒木脳神経外科病院

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-272-1114 FAX 082-272-7048
E-mail info@arakihp.jp
ホームページアドレス <http://www.arakihp.jp>

荒木訪問リハビリテーション

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-527-1123 FAX 082-527-1127

デイサービス あらき

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6100

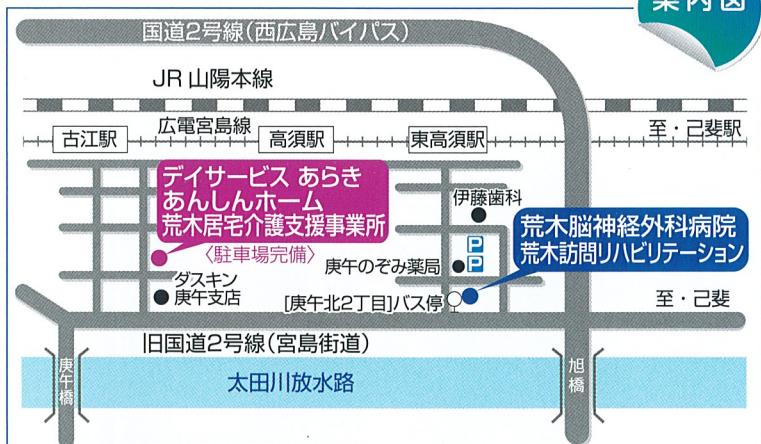
あんしんホーム(認知症対応型共同生活介護施設)

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6600

荒木居宅介護支援事業所

〒733-0822 広島市西区庚午中2丁目11-15
TEL 082-507-6300

案内図



交通案内

○自動車

西広島バイパス「庚午出口」より
宮島方向へ100m(宮島街道沿い)

○広島電鉄・宮島線／「東高須」下車 徒歩3分

○広島バス25号線／「庚午北2丁目」バス停前